

大間窪小学校 創立80周年記念

～タイムカプセル「夢」から「絆」～

「でっけー!」「おまえ、でっかくなったなー」梅雨の晴間に賑やかな声がこだまする。人間関係が希薄になりがちな今日、人と人の絆を深め、子どもたちに、心のふるさとを残したいという、お父さんたちを中心とした保護者のロマンが実りました。創立70周年の時、当時1年生から6年生までの子どもたちがそれぞれ、「10年後の自分へ」手紙を書き、寄せ書きや当日の新聞などと一緒に、「タイムカプセル『夢』」と題して校庭の一角に埋めました。そして10年、創立80周年を迎えた、本年6月1日……数々の感動と、新たな絆が……。

：思いがけないことが：
いよいよカプセルが掘り起こされ、体育館において、電動ノコであけられた中から手紙などが次々わたされると、各グループから歓声があがり、「こんなこと書いていたの、恥ずかしい!」などの声々……そのなかで、思いがけないことがありました。なんと、当時1



：十年前の自分：
懐かしさ・わくわく!
個々の進路を歩み始めた子どもたちが集い、10年前に書いた、自分からのメッセージを受け取る、「タイムカプセル『夢』」から『絆』。手紙に何を書いたのか、ほとんどの子どもは忘れていたようでしたが、それでも、「懐かしい自分に会えるのがうれしい。」と、わくわく待っている様子が印象的でした。そして、お互いに見違えるほど成長した姿に驚きと懐かしさ、再会の喜びで校庭中がわきかえっていました。

：その影に：
子どもたちに、心のふるさとを残そうと10年間、カプセルを埋めた場所を確認し続け、当日を迎えるために、わが身を惜しまず準備してこられた方たちがいました。このような影の労苦は、おのずから、他者への思いやりを持つ子どもたちを育てているのではないのでしょうか。実行委員の皆様、額に汗する姿が輝いて見えました。

：もう、パパに：
この日、集ってきた子どもたちは、130名。その他に、すでに就職している人や、カナダなど海外に留学している人、大学生、高校生から、最近の様子を伝えるメッセージが、たくさん届いていました。参加したメンバーの中には、もうパパになっただけで、お子さんを、高々と抱き上げて紹介する場面や、「カプセルに入れた夢を、今、実現中。」など、お互いの近況報告に会場が盛り上がり、その中で新たな絆が深められているようでした。



◎趣味 釣り
◎抱負 明るい町づくりには町会の皆様とともに尽くしたいと思います。
◎出身 大正15年2月札幌市生まれ。高等小学校卒業後、志願して軍隊へ。戦後満州から東京へ。



新任町会長を紹介します
中川 幸夫さん (豊町5丁目町会長)



品川区203町会(自治会)のトップに
三橋 義一さん (豊町4丁目町会長)

5月27日に行なわれた品川区町会連合会の総会で、豊町4丁目町会長の三橋さんが会長に就任しました。これ

までの荏原第五地区から品川区全体のまとめ役へと、その責任はたいへん大きなものになりました。その思いと決意を伺ってみると、「歴代区長には難題を聞いてもらいました。町会交通部長の時代、杉本区長に『信号機』を。町会長になってすぐ、多賀区長に『町会会館再建』を。」「これまでも無我夢中でやってきましたが、これからは誠心誠意努力して行きます。」とのことでした。地区委員歴は半世紀を越え、運動会を実現させてきた活動的な姿勢は変わりません。今後も「まちの声」の品川代表としての活躍を期待したいものです。

第五いっぴん

第98号
20・8・1

発行 編集委員会
事務局 荏原第五地域センター
TEL 3785-2000



先生からの手紙
年生の先生から、児童一人ひとりに、写真と、その子の特徴を捉えて、真心こめて書かれたと思われる手紙が見つかったのです。手紙を受け取った子どもや保護者が胸をひときわ熱くしたのは言うまでもありません。この先生は現在ミャンマーで、人道支援活動に当たられていると伺いました。

ごみ資源追っかけ隊体験記

5月31日8時、区役所から茨城県へ食品トレイの再生見学に行きました。

途中八潮の品川区資源化センターで、古紙・ビン・缶・ペットボトル等の資源物の選別・圧縮・梱包を見学しました。蛍光灯が資源物であることに驚きました。中のガスと蛍光粉末から水銀を、電極からはアルミを取り出し、外のガラスは建築用のグラスウール(断熱材)にリサイクルされます。

バスの中ではクイズがあり、それに答えていた小学生がリサイクルについてかなり詳しいことに感心しました。

昼前に茨城に着き、回収されたトレイを洗浄・乾燥

粉碎・溶融しペレット(米粒状にカットした物)にするプロセスを見学。このペレットがリサイクル原料になり、エコトレイ・植木鉢等に再生されるのです。

トレイ回収を始めて16年半で容積にして東京ドーム10・8杯分、原油1億5千万7百万リットル、ごみ回収車11万台が節約されたことになるそうです。

掃りの車中で区の職員は「区では10月から埋立処分場を長持ちさせるために、不燃ごみを、資源・陶器ガラス金属ごみ・燃やすごみに分けま

す。」との



話をしました。「洗えば資源」というように、プラスチック製品はゆすぐだけで資源として出せま

町会のチョットいい話

豊町3丁目町会

26号線の工事が始まる前からの活動として町内のタバコのポイ捨てを毎朝片付けている人がいました。工事が大崎高校側から東急電鉄に入ってからのことです。「毎朝誰が片付けてくれるのだろうか?」と、工事関係者の知るところとなりました。大井町線の線路ぎわと四中の裏門を真つすぐ、下神明までの道のりを通勤の人達が

大勢利用し、ポイ捨ても沢山あります。東急の人が区に問い合わせ、やつと分かりました。

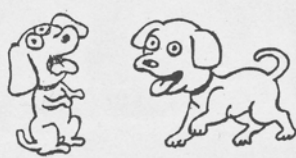
二葉神明町会

街路に植えられている花を折ってしまう人が報道される昨今、5年程前から二葉神明商店会街路灯の下にプランターを設置して花を植えています。町並みを整える為と、歩道ギリギリに大型トラックが駐車されて街路灯にトラック上部が接触するのを防ぐ目的があります。年間3〜4回の植替えをしていますが、いつの間にか花が寄せ植えされて増えていることがよくあります。地域の皆様に愛され、一緒になって育てていただければ幸いです。街の中だけでなくそこに住んでいる人々の心の中にも花があるような町であって欲しいと思います。



二葉2丁目町会

町内の一角を占めるNFパークビルの敷地は、広々としたみんなの憩いの場。この広場で、3年ほど前に越してきたKさんが、散歩の途中で転び困っていたところ、ベンチでくつろいでいた人に助けられ「善い人がいる町へ越してきてよかった」と感謝していました。



この公園では、日頃から地元の人々が犬の散歩などを通して広く友好を深め、特に、お祭りなどの行事にはこの広場で、地元町会のあたたかなもてなしもあり、他の地域に越した人たちも帰ってきました。企業提供の広々とした公園が、二葉2丁目のオアシスとして、みんなの心を豊かにしてくれているようです。

ひり言

編集会議でテーマ検討中にタイミングよく『ごみ・資源追っかけ隊員募集』の話が出たので参加してみました。以前から、埋立処分場がいっぱいなるのなら、プラスチックでも何でも燃やしてしまえばいいのでは、と思っていたが、プラスチックまでもが資源にできるとは、人類の科学の偉大さに感心しました。しかし、再生はできても無から物を生じさせることは不可能なので、天地の間に生きている私達は自然の恵みと働きに感謝することを忘れてはならないと改めて感じます。

川名

古紙を配合した紙を使用しています